

1 年学年便り

# 蓄える

～夢に向かって輝くために～

No.1 2 令和4年1月28日

## 間遠学習発表会

1月15日(土)に間遠学習発表会を午前中に行い、午後は富士山麓サミットが行われ、北部地区6校(井之頭小、井之頭中、人穴小、上井出小、白糸小、西富士中)の代表者による発表をリモートで視聴しました。1年生は自分の興味のあることを1年かけて調査し自分の課題を設定しました。2年生では、課題を追究する活動を行っていきます。発表会の振り返りの文を掲載します。

・集めた情報を整理し、必要な情報をもとに自分の考えを発表することができました。来年は、食に関するまちおこしの取り組みとその改善点について学習していきたいです。このまちが少しでも発展していけるように自分達に何が出来るのか考えたいと思います。(藁科瑛太さん)

・今年は地元の白糸の滝や朝霧高原について調べました。来年は、今まで調べていない観光地と自然の恵みや食との関連を調べ、どのような特徴があるのかを調べた中から発見したことをまとめ、分かりやすく発表したいと思います。

(鈴木 渚さん)

・今年は白糸の滝の商店街にあるスロープや手すりなどが障がい者のために設置されていることを知って、バリアフリーについて興味が出ました。バリアフリーが設置されている場所を調べてその目的を調べてみたいと思いました。

(鍋田紗子さん)

・地元の白糸の滝に関連した情報をたくさん集めました。その中で、まちを元気にするイベントやお祭りに興味が出ました。来年は、イベントやお祭りの写真を自分で撮り、運営している人にインタビュー調査をして、まちを元気にする方法をまとめて発表したいです。(渡邊 空さん)

・地元の白糸の滝の商店や浅間大社に行ってインタビュー調査をして、周りの植物を生かすようにお店の建物の色や自販機の色などを落ち着いた茶色や黒を用いていることやお客様に笑顔で接することを心がけていることが分かりました。来年は、少し視点を変えたところからも情報を集めて比較してみたいと考えています。(漆畑幸音さん)

・白糸の滝の商店街ではコロナの影響で観光客が2年間で大幅に減り、行事がなくなってしまったが、そのような中でも白糸の滝のライトアップやお店のライブ配信など若者からお年寄りまで多くの人に安心、安全を宣伝する努力を続けたことが分かりました。来年は、いろいろな人に訪れてもらえるようにバリアフリーについて調べ、発表したいと考えています。(松田咲楽さん)



## 道徳の授業より 「たとえばくに明日はなくとも」

・正一君のように小さいときから難病であまり生きることができないとわかったら、絶望して何で？というふうに自分を責めてしまうこともあると思うけど、どんなに辛くてもやれることを一生懸命やるというのが大切だと思います。正一君は少ししか生きることができないというのを受け入れた。だから、懸命にやりたいことに取り組んでいたのだと思います。私はこの話を読んで、こういう人もいるということを頭に入れ、どんなにつらいことも乗り越えていこうと感じました。また、コロナで大変な時期だからこそ、自分にできることはしっかりやっていきたいと思いました。（井出満優美さん）

・この授業を通して、正一さんは自分がすぐにしんでしまうということを知っているのに前向きですごいなと思いました。（佐野惺玲さん）

・僕は今まで大きい病気にかかったことがなく命がどれほど大切なのかなんて考えたこともありませんでした。だけど、今日のお話を聞いて「自分のことを考えると辛くなり、幸せなことを考えると嬉しくなる。」というところは、命ほど尊いものはないと実感しました。（笠井惺勇流さん）

・私は、この詩や話を聞いて、正一さんの生き方はすごいと思いました。私は実際に体験したことがないから分からないけれど、正一さんは手足が不自由になって生きる希望がなくなってしまうでも、できること（やりたいこと）を探してやり遂げることがすごいと思いました。私はこれから生きていく中で嫌なことがあっても前向きなことを考えて命を大切にしたいです。（齋藤柚花さん）

・石川正一さんの生き方はとても参考になるよい生き方、考え方だと思います。自分が病気の状況をしっかり受け止めたからこそ、いろいろなことに挑戦し、励み、努力できたのだと思います。そんな姿をととてもすごいと思います。正一さんは館野の生き方に感動し尊敬したから、自分自身もこう生きようと考えられたのだと思います。自分も他人と違うことがあってもしっかり受け止めて生きていこうと思いました。（小林龍矢さん）

・私は「いのち」より大切なものはないと思っていました。「なんで生きていかなくてはいけないんだろう？」とか感じたことはないけれど、「生きよう！！」と思える人生にしたいです。私の「生きる意味」はまだ分からないけど、これから「最後までやり続けたい。」ということを見つけて生きる意味を探していきたいです。（大石美織）

・自分はこの病気のことを知っていたけれど、何歳までしか生きられないというのは知らなかったもので、もし、自分がこの病気だったらと考えてみました。きっと、すぐに打ちのめされていやになってしまう。正一さんの自分の命より大切なもののためなら頑張って生きていこうという思いに触れて、自分にとって命より大切なものは何だろうと思いました。（清水紅凜さん）

・今、自分が生きていることや、病気にならずに健康に過ごせていることは当たり前ではないということを改めて思いました。正一君や星野富弘さんは、どんなに辛い病気になってしまっても、今、「自分にできることは何か。」「なぜ自分は生きているのだろう」という生きる意味を考えたのだろうと思いました。自分にとっての「生きる意味」をしっかり考えたいです。（鈴木渚さん）

